

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1110 2012年9月号

第38回

四国林政連絡協議会開催

9月6日、愛媛県庁において、四国森林管理局と四国4県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、第38回四国林政連絡協議会を開催しました。(詳細は2頁)



第38回四国林政連絡協議会

四国林政連絡協議会を開催

〈企画調整室〉

九月六日、愛媛県庁において、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、林野庁から担当官の出席を得て第三八回四国林政連絡協議会を開催しました。

開会にあたり会長の新木四国森林管理局長から「この協議会は、四国地区における民有林行政と国有林野の管理経営との連携強化を図り、森林の適正な整備及び林業・木材産業の振興に資することとしており、こ

の協議会を機に、今後とも、

ご参加の各構成機関とより一層連携を深めながら、森林・林業等の課題について意見交換、情報交換等を行い、今後の方向を見定めていきたい」と挨拶がありました。

次に開催県である愛媛県の浅野森林局長と林野庁計画課箕輪企画班担当課長補佐から挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告・審議、林野庁から森林・林業を巡る最近の動きについての説明が行われました。その後、

各機関から国産材の利用拡大、森林吸収源対策、四国J・V・E・R制度等についての取組状況や、森林総合研究所における林業再生に資する各種研究事例や国有林との連携の状況について説明があり、これらの説明に関して各機関からは活発な意見や要望が出され、有意義な意見交換が行われました。



四国林政連絡協議会会長挨拶(新木局長)

防災訓練を実施

〈企画調整室〉

九月三日、四国森林管理局において、南海地震が発生した場合を想定し、防災体制の確立及び災害対応能力の向上を図ることを目的とした防災訓練を実施しました。当日は局長、三部長を始め、各課長等の幹部が参加し、午前七時に四国沖を震源とするM8.4の地震が発生したとの想定で、非常参集訓練を行いました。参加者からは「日常的に地震に対する危機感、防災意識を持つことが重要」、「地震発生後における初動体制が重要だと実感した」、「自分のやるべき役

目等を確認できた事は有意



対策本部設置後、図上訓練を行っている様子

義」等の意見がありました。局での津波対策等を踏まえた防災訓練は今回が初めてで、この結果を踏まえ次回の防災訓練や対策に活かすこととして

「第一回国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整室〉

七月二十七日、高知県高岡郡中土佐町にある四万十森林管理署管内の国有林において、平成二四年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は好天に恵まれ、四国四県から国有林モニターの方一六名が参加されました。

開会にあたり新木四国森林管理局長から「実際に森林の状況を見て感じていただき、国有林の取組について理解を深めていただきました。」との挨拶がありました。

最初の見学地では間伐材を搬出する森林作業道に入



国有林を眺望し、特徴を説明

その後、間伐事業実施箇所へ移動し、森林整備事業の概要や架線集材、高性能林業機械について見学しました。当日になって故障してしまつた高性能林業機械のハーベスタが稼働しているところは見る事ができませんでしたが、架線で間伐材を集材し、グラップルで資材整理するところを見ることができました。

その後、魚の生息や繁殖を助ける魚つき保安林に寄り、保安林についての理解を深めました。

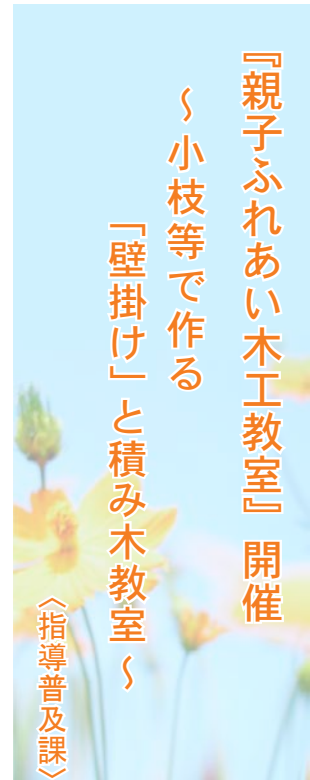
今回の勉強会に参加したモニターの方々は、複層林等の多様で健全な森林へ誘導していく森林整備、人工林の間伐事業箇所における高性能林業機械や間伐材の活用の取組、また、保安林

について、実際に国有林に足を運んだことにより理解を深められた様子でした。当日は大変暑い中でしたが、説明を熱心に聞き、活発に質問や意見を述べられていました。



グラップル作業の見学





『親子ふれあい木工教室』開催

小枝等で作る

「壁掛け」と積み木教室

〈指導普及課〉

八月二四日、公募による親子一九組、四五名が参加した「夏休み親子ふれあい木工教室」を、四国森林管理局において実施しました。

教育と木工教室を実施し、森林の役割や森林からの恩恵について、参加者に質問しながら森林教室を行いました。続いて、森林整備等で発生した広葉樹の小枝などを

この木工教室は、夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めることを目的として、オイスカ高知県推進協議会との共催で、例年、夏休み期間中に小学生とその保護者を対象に開催しています。

前半は、当局の森林環境



木工作業中

準備段階では見本と同じ数のパーツを準備はしましたが、子供たちの個性は炸裂、夢のある作品が完成。

使って『壁掛け』製作に取りかかりました。今年も、二種類の見本を用意し、受付で作りたいた品を選んでもらうこととしました。見本を参考にオリジナルの作品を作った貫うこととしていましたが、細かなパーツが幾つもあり、子供たちはその色塗りに悪戦苦闘。しかし、所定の時間内に見事に完成しました。



積み木はどこから来たの？



どれもすばらしい大作でした。当局の木工教室の後は、オイスカスタッフと海外研修生が先生になり、積み木教室を行いました。子供達は、先生のお話を聞いた後、広い真っ赤な絨毯の上で、保護者も交えて積み木遊びにそれぞれが夢中に取り組みました。上へ上へ高く積み上げる

子、几帳面に隙間無く頑丈なビルディングを作る子、最後に、みんなが組み上げた積木はどのように出来たかなど、オイスカスタッフが順を追って丁寧に説明すると、子ども達は森林整備のために木を伐ることの大切さを知り楽しい一日を過ごしました。

各地のたより



木工クラフト

定番は道具の

正しい使い方

〈ふれあいセンター〉

七月三日、ジョン万次郎

の生誕地で有名な高知県土佐清水市中浜の市立中浜小学校の全校児童二九名を対象に木工教室を実施しました。

まず、低学年向けのデジタル紙芝居「森」を活用して、森や木は身近なもので、大切なものであることを理解してもらった後、三年生以下の低学年と高学年に分かれて工作開始です。



鋸刃に注目（中浜小）

低学年の児童は、職員が予め準備したサクラの枝などの輪切りを木工ボンドで貼り合わせて、クマのストラップなどを作りました。高学年は、「道具の正しい

使い方」から入るのが当センターの定番です。ノコギリは手前に引くとき切れるので、軽く押しきつ直ぐに強く引く。剪定ばさみは小枝などの切断用で、小指程度より大きいものはノコギリを使って安全に切る。クラフトナイフ

は大振りすると周囲の人を傷つける恐れがあるので、利き手で握って、一方の材料を掴んだ手の親指で押し切る。彫刻刀の刃先を手を置かない。キリは、足に見たてた木片に落として切つ先が刺さるのを見せ、使い終わったら必ずキャップをかぶせること等々。実演を交えての安全で正しい使い方の指導は、分かりやすく児童も熱心に聞くと先生方にも喜ばれています。

は大振りす

製作を待ちわびた児童

できます。

ると周囲の人を傷つける恐れがあるので、利き手で握って、一方の材料を掴んだ手の親指で押し切る。彫刻刀の刃先を手を置かない

そのような環境にあつて

る。製作を待ちわびた児童は、教わったとおり道具を正しく使つてクマの置物などを作り上げ、それぞれ満足そうな様子でした。後日、「山の先生ありがとう」とかわいいらしい状が届き、同校ではすっかり「山の先生」になってしまったようです。



宇宙人？（上川口小）

か、児童も木製品にはなじみ深い様子で、予め考えていたと思われる作品に手早く取りかかると、道具を上手に扱う猛者やトンボの羽になるように切つてと職員を悩ませる児童もあり、七人のこぢんまりとした教室ながら、できあがった可愛い子犬や手の込んだカニなど、オリジナルな作品には職員も感心することしきりでした。

両校とも初めての出前授業でしたが、引き続きの森林教室を要請され、森林環境教育の拡がりに手応えを感じての帰路となりました。

空飛ぶ種子

〈ふれあいセンター〉

七月一日、土佐清水市立清水小学校の五年生六九名を対象にした森林教室で森林環境教育プログラムの中から「空飛ぶ種子」を実施しました。

まず、植物の種子がどのような方法を使って種子を散布するのかを学習し、風を使って飛ばす植物、動物に実を食べさせたり、種子を付着させたりする植物、水に浮いたり漂わせたりする植物、さやははじけたりドングリのように転がしたりする植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布

することを写真で紹介しました。

また、「マツ」や「カエデ」の種子は実物と風洞実験装置を使ってくると回りながら飛ぶ様子を観察しました。

大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのようにふわと飛ぶ様子には「おー」と驚きの声が上がりました。

次に、「アルソミトラ」や「マツ」、「ニワウルシ」「ラワン」の種子の模型を色紙やステレンシートを使っ

て作りました。

ステレンシートで作ったラワンの種子模型を輪ゴムで飛ばすと体育館の天井近くまで上がり、くると回りながら落ちてくる様子に「おもしろい」と何度も飛ばしていました。

さっそく「夏休みの自由



種子の模型を作る

研究にしよう」という児童もおり、自然や環境に興味を持ってもらえたと確信しています。

夏休みわくわく

自然体験活動

〈香川森林管理事務所〉

当所では、讃岐富士と呼ばれる飯野山において、飯山北地区コミュニティ推進協議会と遊々の森（名称「おじよもふれあいランド」）協定を結んでおり、丸亀市内の小学生を対象に森林環境教育を行っています。

この夏休みにおいては、八月二三日に、飯山北地区

ら、ビンゴのマスに書いた生き物や木の実、においのする物を懸命に探して飛び回っていました。

続いて、ビンゴで拾った落ち葉を使った落ち葉アートを行います。



クラフト作成の様子

コミュニティセンターにおいて、小学生とその父兄の計四八名が参加し、「夏休みわくわく自然体験活動」と称したイベントを行いました。

はじめに、コミュニティセンター周辺で、ビンゴを活用した自然観察を行いました。児童たちは、細かく、ビンゴのマスに書いた生き物や木の実、においのする物を懸命に探して飛び回っていました。

最後に、木製キットによるクラフト作成を行いました。初めは慣れない手つきで鋸や小刀を使っていたが、父兄と一緒に参加した児童は、親子でふれあ

ました。赤や茶色の落ち葉を使い、カラフルにラミネートしながらネイチャーアートを作成していました。

その創造力豊かな発想には驚かさされました。児童たちにとっては夏休みの楽しいイベントとなつたようで、機会があったらまたやりたいとの感想がありました。

木笛をつくろう！」が開催され、当署からは、職員三名が参加しました。中村こども劇場は、四万十市を中心に一五〇名ほどの会員で構成されており、「こどもたちに知識ではなく、生きぬく知恵や想像力（創造力）豊かに育てほしい」との願いから、舞台鑑賞をはじめ、農業や陶芸などの生の体験を行っています。また、市内に「わんぱくの森」を設けて自然活動なども行っています。

今回の催しは、同劇場の夏休み企画の一環として、「こども達に木を使っているいろいろなものを作ること」で、自然素材の暖かさを感じながら、想像力を発揮させ、物を作る機会を与えたい」という目的のもと、四万十市中央公民館を会場に、同劇場に所属する五歳から一歳までの親子約三〇名が参加しました。代表の開会あいさつのもと、早速、のこぎりやナイフを手に木作業に取りかかりました。

木笛は、音を出すのに微妙な調整が必要で、手伝いをする当署職員の手元を澄んだ瞳でじっと見つめるこども達の視線に、職員も緊張している様子でしたが、音が鳴ると歓声と笑顔が広がる光景が見られました。

「親子木工教室」開催
木笛をつくろう！
〈四万十森林管理署〉

八月一九日、高知県四万十市の「中村こども劇場」が主催する「親子木工教室

また、こども達の自由なアイデアによって、キーホルダーやネックレス、ヘラクレスカブトムシやオオク

また、こども達の自由なアイデアによって、キーホルダーやネックレス、ヘラクレスカブトムシやオオク



楽しい木工教室でした

そのときに少しでも
森林や林業
に目を向け
てくれる良
き理解者で
あり協力を
とさせて頂
けることを
心待ちにし
ています。

ワガタなどの制作を夢中になつて行い、創造性豊かな木工作品がたくさん出来上がりました。
こども達は趣向を凝らした作品を制作するなかで、木に触れることにより、木の持つ暖かさや柔らかさ、物づくりの楽しさやおもしろさ、香りや手ざわりなどを感
じる事ができたよう
です。
幸いけがなく、みんな
で後片付けをして無事終了
し、夏休みの一日を過
しました。
今回参加してくれたこ
ども達も一〇年後には私
ちの大きな仲間
に成長しま
す。



どろんこで、地域交流

「フォレストスターズ」は安芸署の福山選手の華麗なシュートが決まりましたが、惜しくも初戦敗退してしまいました。一方の「えいじ軍団」は、気合いと賑やかさはどのチームにも勝っていましたが、前日の懇親会の疲れからか、後半はスタ

私達も、一回戦突破に向けトライしたいと思えますので、見かけた方は応援してくださいね。

九月二日、恒例の「どろんこサッカー」が、今年も愛媛県愛南町で開催されました。私達、森

日本の夏、泥まみれの夏
どろんこで地域交流
〈愛媛森林管理署・
四万十森林管理署〉

林管理署からも愛媛署、四万十署はもちろん、安芸署、嶺北署、香川所から選手が集まり、日頃、履き慣れている森林作業用地下足袋から田んぼ用の足袋に履き替え、「フォレストスターズ」と「えいじ軍団」の二チームが参加しました。

ミナが切れてドロローにより、ジャンケンで負けてしまいました。その後も、「どろんこフラッグス」にも挑戦しましたが、紙一重で負けてしまいました。

毎年、地域の方々との交流を楽しみに参加しています、参加しても試合を観ても楽しい大会です。また、地元産品(米・ブドウなど)の販売もあり、皆様方も、一度、足を運んでみませんか。